

# 丸亀市人口ビジョン

## (令和 2 年改訂版)

令和 2 年 3 月

丸 亀 市



# 目 次

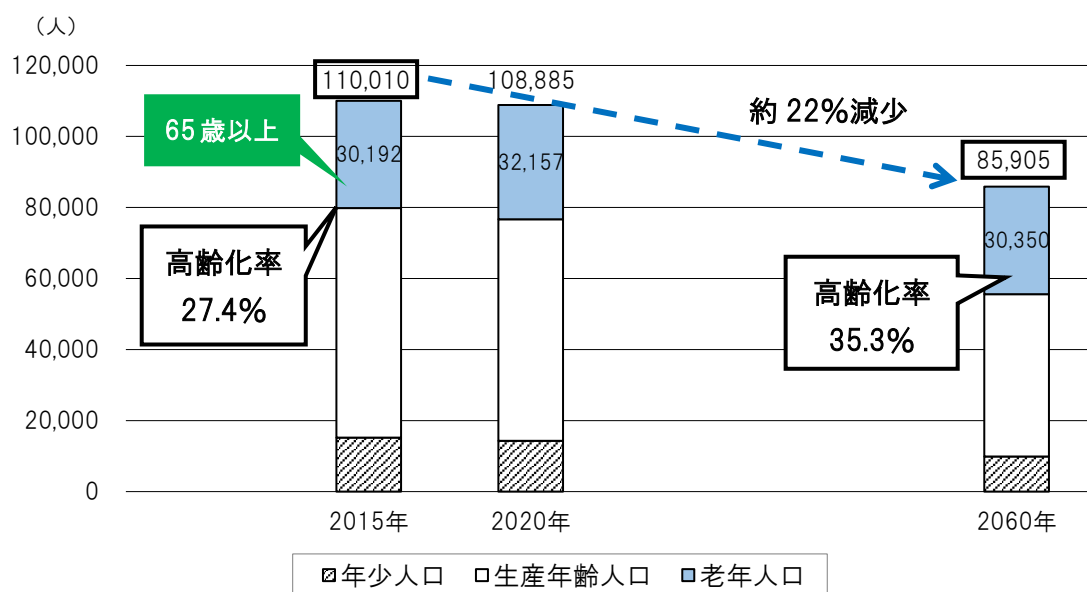
はじめに ～丸亀市人口ビジョンの前提～	2
1 基本的な考え方	3
(1) 人口ビジョンの位置づけ	3
(2) 対象期間	3
2 丸亀市について	4
(1) 統計資料からの把握	4
(2) アンケート調査からの把握	13
3 将来人口推計のための分析	17
4 人口の将来目標	20
(1) 丸亀市独自推計による総人口の推計結果	20
(2) 将来目標によってもたらされる効果	22
(3) 目指すべき将来の方向 ～第2期丸亀市未来を築く総合戦略に向けて～	24

# はじめに ～丸亀市人口ビジョンの前提～

## 丸亀市における人口の現状と将来の予測値

国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）が2018年3月に公表した人口推計では、丸亀市の総人口は2015年の110,010人から2060年には約22%減少し、85,905人になると予測されています。

また、高齢化率（総人口に占める65歳以上の人口の割合）は、2015年の27.4%（約4人に1人以上）から、2060年には35.3%（約3人に1人以上）になると予測されています。



資料：2015年は国勢調査、2020年、2060年は社人研による推計値  
（※社人研の推計はコーホート要因法に基づく。以下同じ。）

## 人口減少や高齢化が進行すると・・・

消費の減速による地域経済の縮小や、社会保障費の世代間の公平性が保てなくなるばかりでなく、公共サービスの低下による福祉環境の悪化を招く恐れがあります。

丸亀市の未来を築くために

**地域の活力が失われないよう、  
できる限り人口規模を維持する必要があります。**

# 1 基本的な考え方

現在、日本全体が人口減少社会に突入し、深刻な問題となっています。本市においても、人口のピークを過ぎ、他地域と同様に少子高齢化が急速に進行しており、これからは、人口減少に歯止めをかけるための施策が急務となっています。

こうした全国的な人口減少と、それに伴う地方の衰退に歯止めをかけるため、国において2014年12月に、まち・ひと・しごと創生法に基づく長期ビジョン・総合戦略が閣議決定され、2019年6月には、2020年度から開始する次期計画の基本的な考え方が示された「基本方針」が定められました。

これを受け、本市が2015年10月に策定した「丸亀市人口ビジョン」について、国の長期ビジョンを勘案し、改訂を行うものです。

## (1) 人口ビジョンの位置づけ

人口ビジョンは、本市における人口の現状を分析するとともに、今後目指すべき将来の方向と人口の将来目標を提示するものです。

人口減少に歯止めをかける積極戦略と、人口減少に対応したまちづくりを行う調整戦略のバランスを図りながら、今後の人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察を行い、目指すべき将来の方向等を提示します。

## (2) 対象期間

人口ビジョンの対象期間は、2060年までとします。国の長期ビジョンと同じ期間とし、長期的な視野に立った展望を行います。

なお、国の方針転換や、今後の本市における住宅開発等の影響、社会経済動向の変化など、人口に大きな影響を与える要因があった場合などにおいては、適宜見直しを行うものとします。

## 2 丸亀市について

### (1) 統計資料からの把握

#### これまでの総人口推移

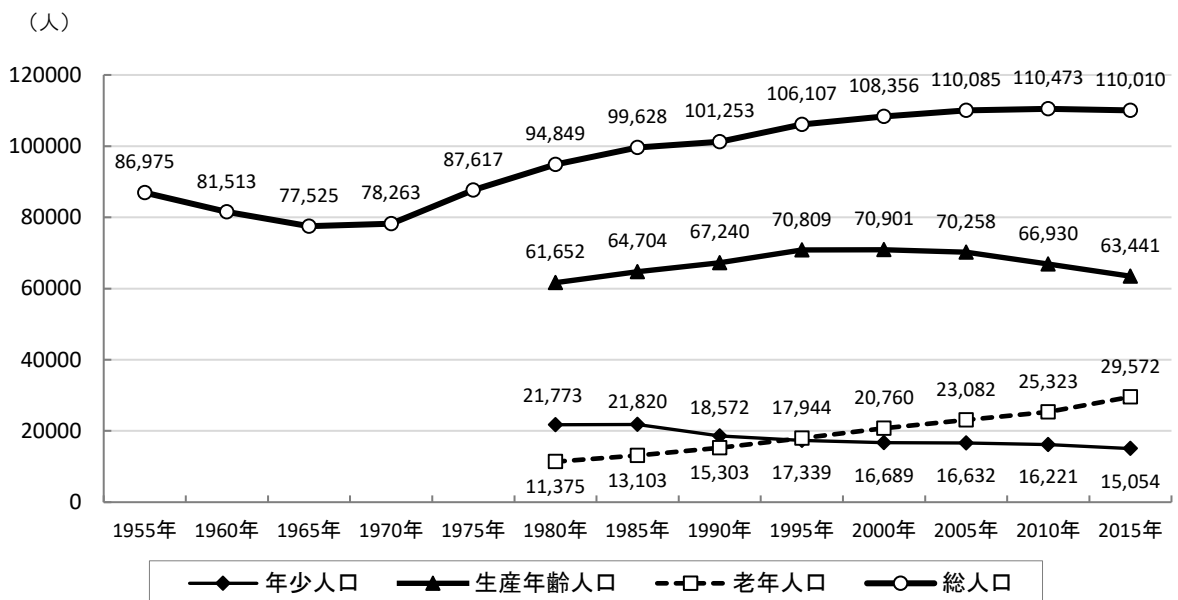
## 総人口は増加傾向であったものの、 2015年国勢調査では、110,010人と減少に転じる

○総人口は1965年以降増加していますが、2015年国勢調査では減少に転じています。

○年齢3区分別でみると年少人口（0-14歳）、生産年齢人口（15-64歳）は減少が続いています。

○65歳以上の老年人口は年々増加しており、少子高齢化が進行していると言えます。

#### ■総人口・年齢3区分別人口の推移



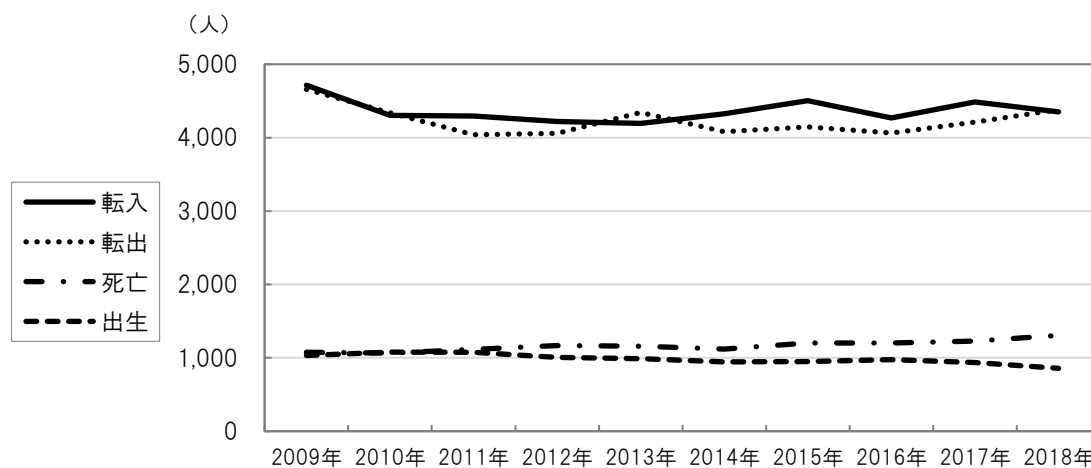
資料：国勢調査

\* 2000年以前のデータは合併前の旧1市2町の数値を合計しています。

## 近年の人口動態は、 自然減と社会増の傾向にある

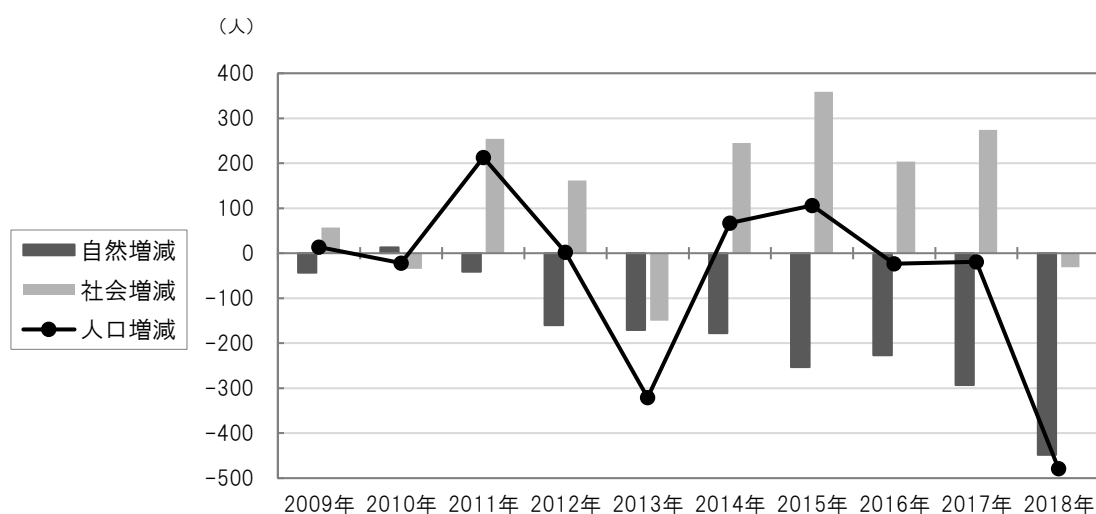
- 社会増減(転入数－転出数)については、年による変動があるものの転入数が転出数を上回っている年が多く、総体的に社会増となっています。
- 自然増減(出生数－死亡数)は、減少傾向となっています。

### ■転入・転出、出生・死亡の推移



資料：香川県人口移動調査報告

### ■自然増減と社会増減の影響（2009年～2018年）



資料：香川県人口移動調査報告

## 転入・転出の傾向（年齢別）

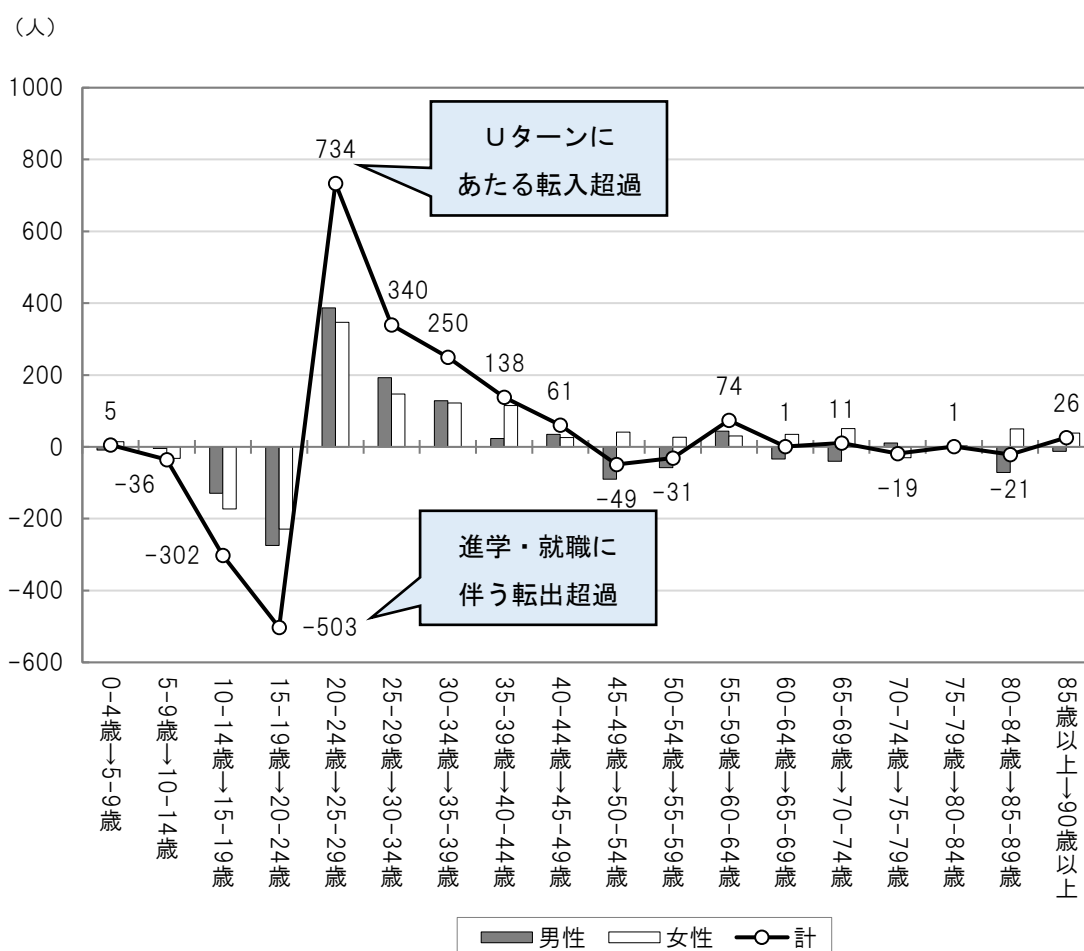
### 高校卒業を機に若者が市外へ流出するが、 20代でUターン等による転入もある

※純移動数の見方 例)15-19歳→20-24歳 2015年時点で20歳から24歳までの方について、5年前の住所地からの移動状況を示しています。

○進学や就職による転出超過の傾向が表れていますが、20歳-24歳→25歳-29歳での転入は多くなっています。

○55-59歳→60-64歳で、定年を機に移住やUターンによる転入超過が見受けられます。

■2010年→2015年の男女別・年齢別純移動数



資料：国勢調査



## 転入・転出の傾向（地域別）

### 高松市、大都市圏などへは転出超過

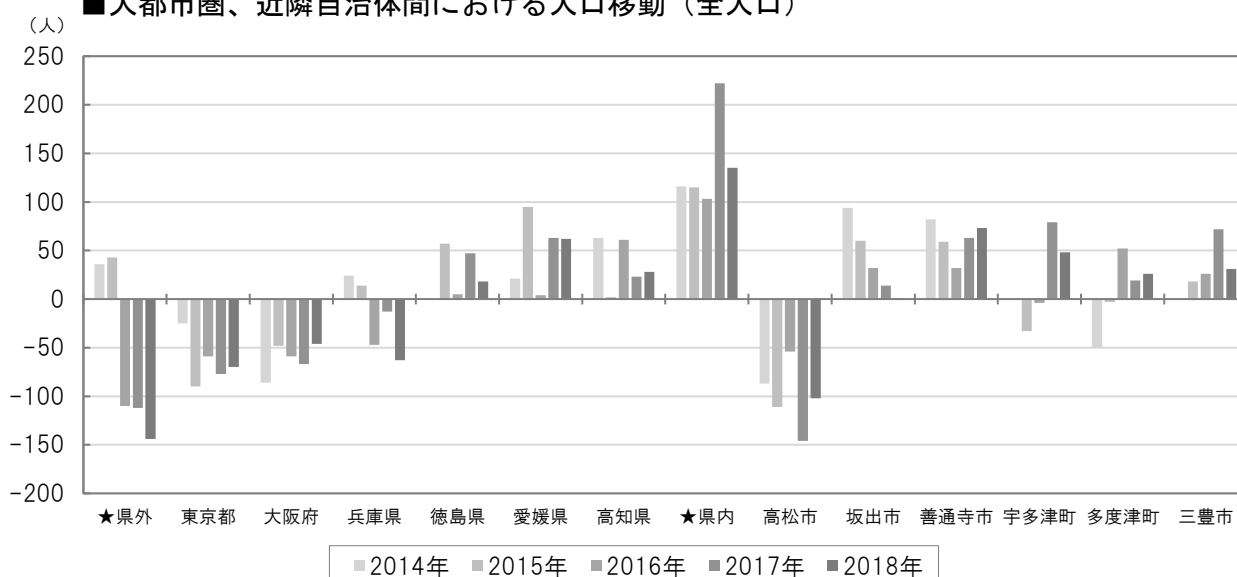
### 近隣市町、四国3県からは転入超過

○県外への移動をみると、東京都、大阪府、兵庫県では転出超過となっていますが、四国内では転入超過となっています。

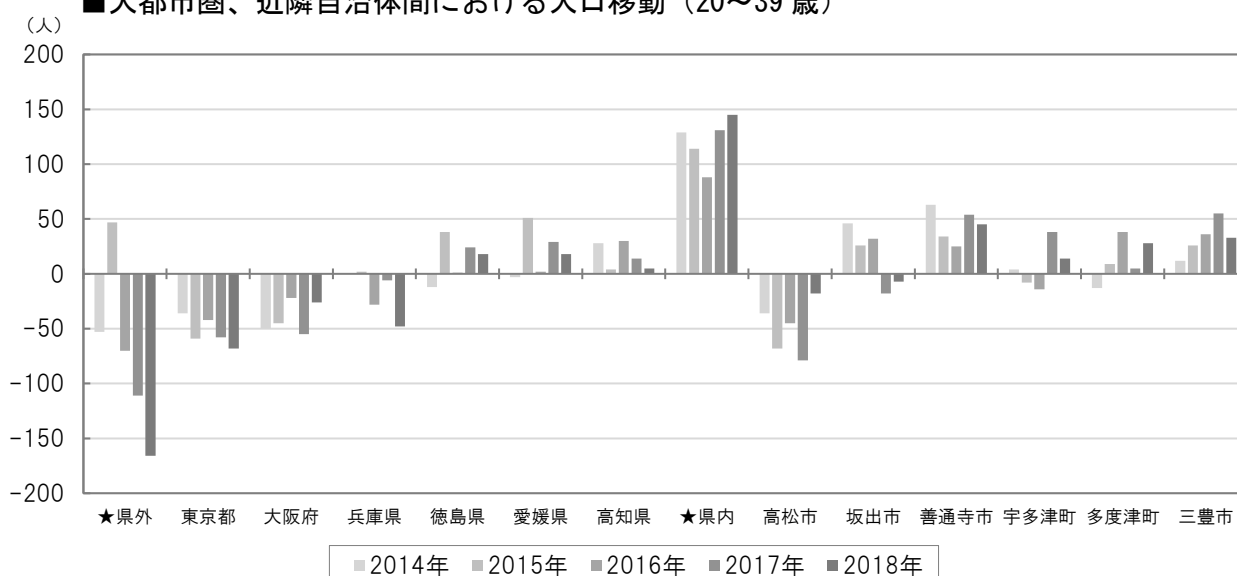
○県内の近隣自治体間の移動をみると、高松市で転出超過となっています。

○20～39歳の子育て世代に限ってみても、同じような傾向となっています。

#### ■大都市圏、近隣自治体間における人口移動（全人口）



#### ■大都市圏、近隣自治体間における人口移動（20～39歳）



資料：住民基本台帳人口移動報告

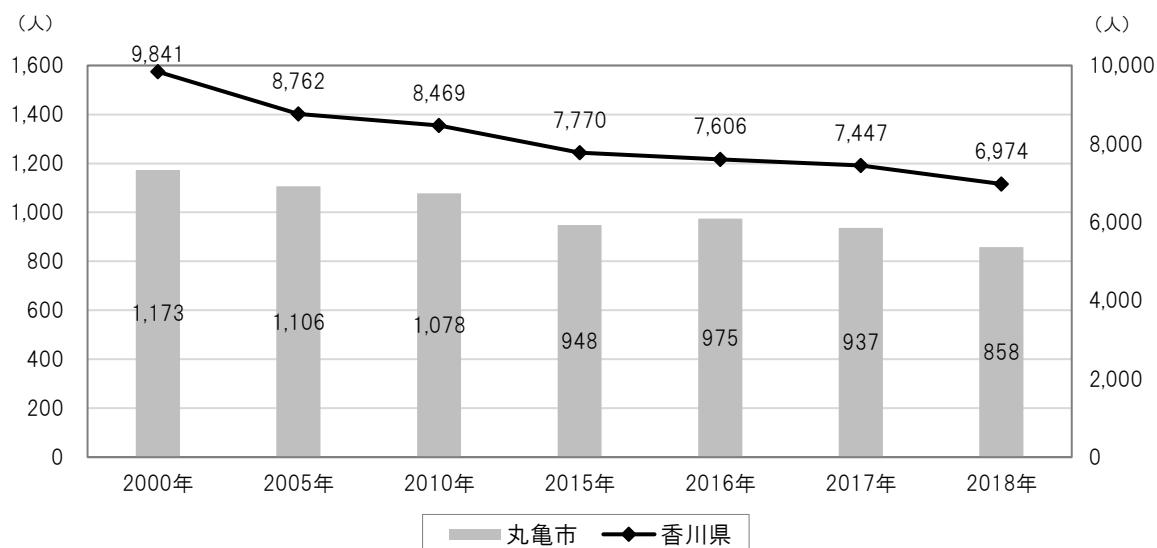
## 1 年間に生まれる子どもの数は減少し、 2018 年に 900 人を切る

○県、市ともに、出生数は 2000 年をピークに、減少傾向にあります。

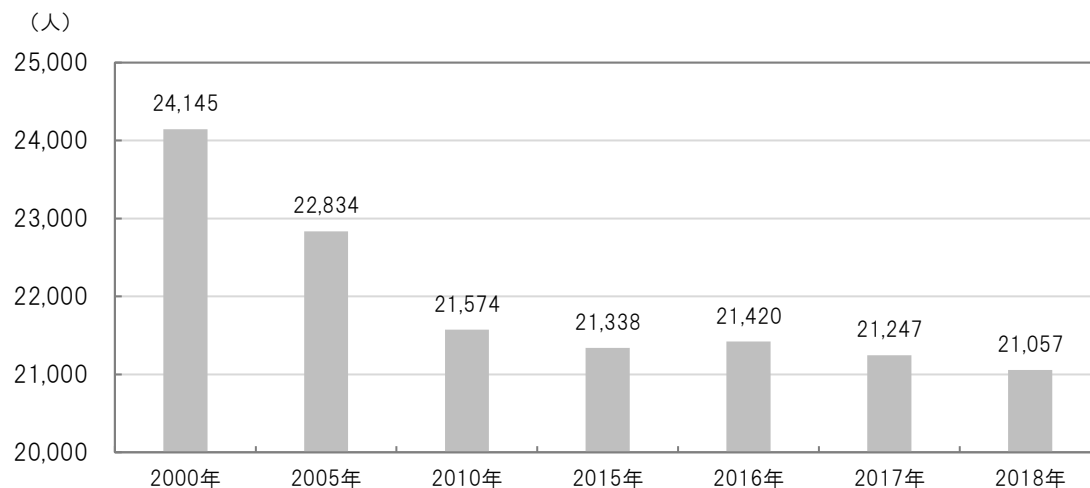
○2013 年からは 1,000 人を、さらに 2018 年には 900 人を下回っており、2000 年と比較すると 300 人以上減少しています。

○女性人口(15～49 歳)についても、減少傾向にあります。

### ■出生数の推移（県との比べ）



### ■女性人口（15～49 歳）の推移



資料：国勢調査、香川県人口移動調査報告

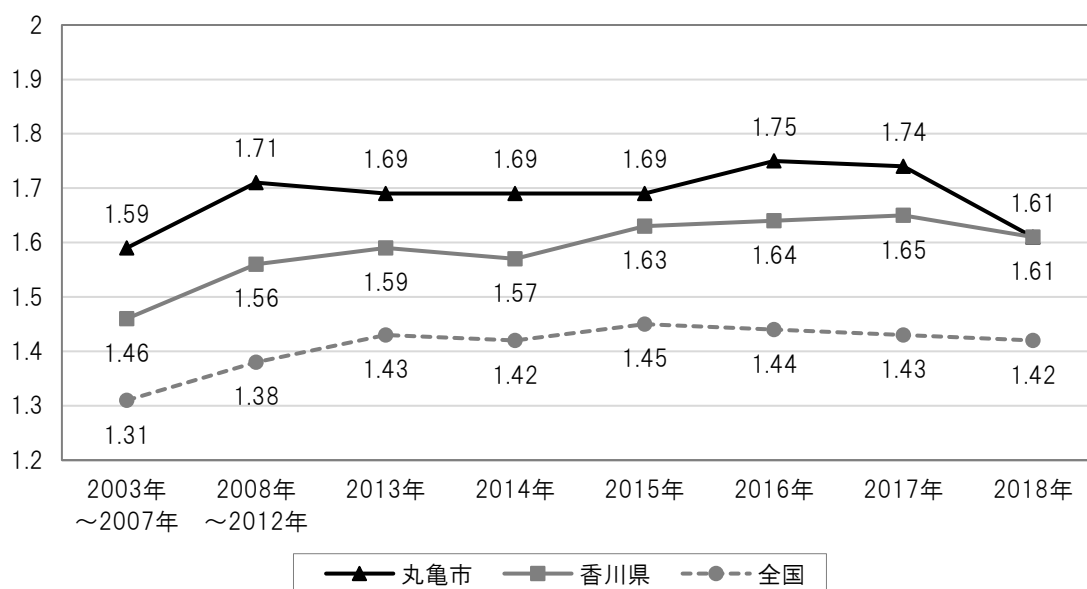
## 合計特殊出生率について

# 合計特殊出生率は、 概ね国や県を上回って推移している

○合計特殊出生率は、概ね国や県を上回って推移しています。

○2018年は、県と同じ率となっています。

### ■合計特殊出生率の推移

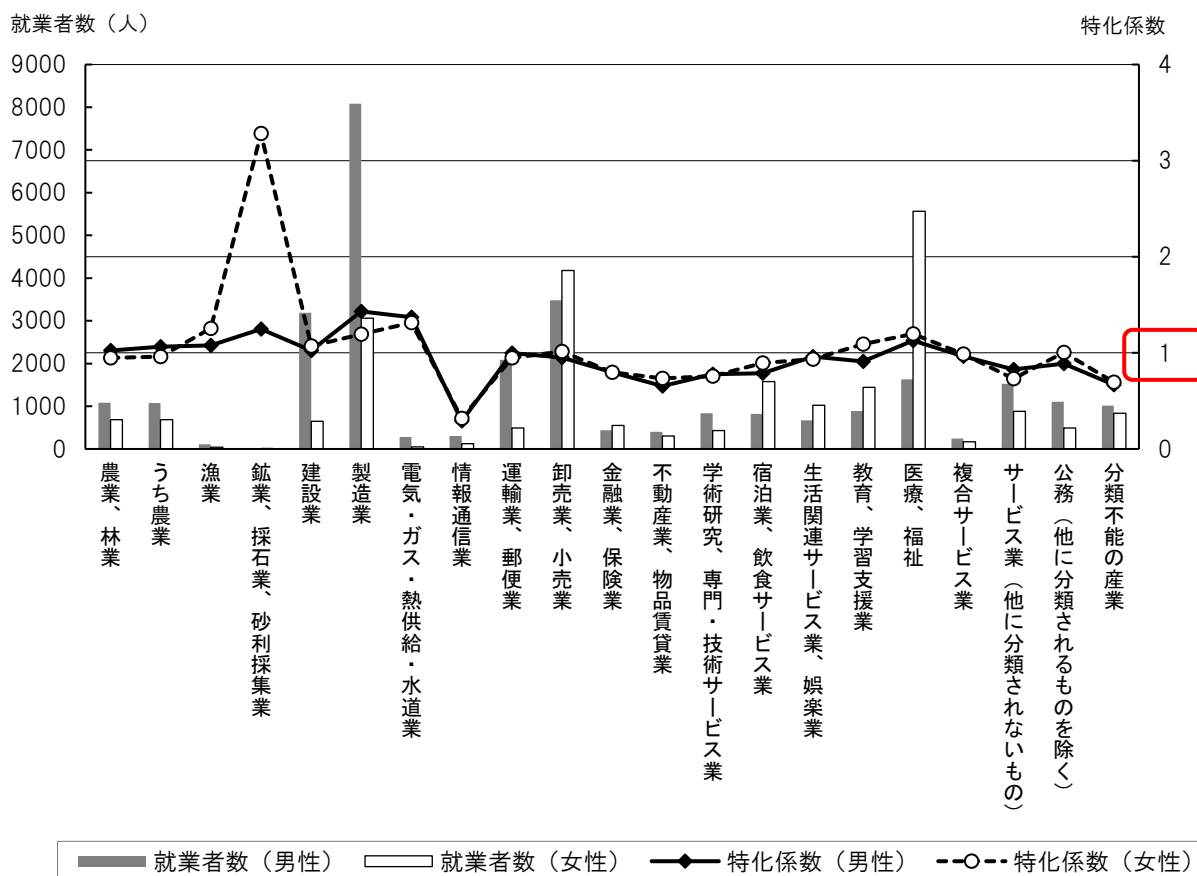


資料：人口動態保健所・市町村別統計、人口動態調査

## 男性は「製造業」、女性は「医療、福祉」が多い 夜間人口が多く、通勤は市外へ

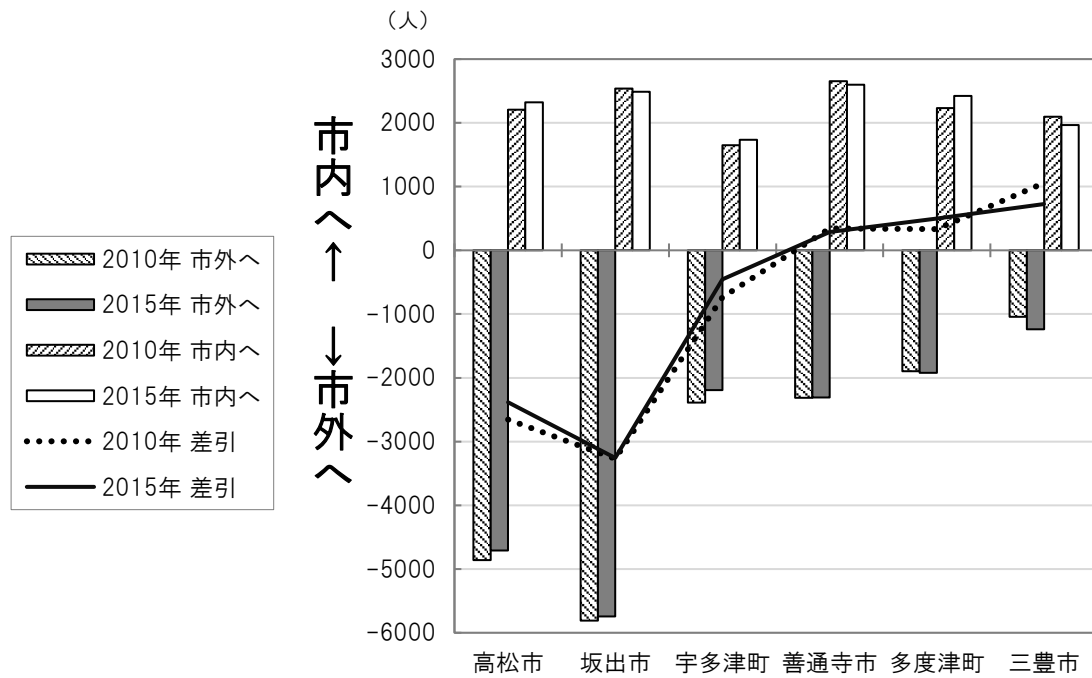
- 男性では、建設業、製造業、卸売業・小売業の就業者が多く、女性では、卸売業・小売業、医療・福祉への就業者が多くなっています。
- 特化係数（本市の就業者比率／全国の就業者比率）が「1」を超える産業は、全国平均と比較して就業者比率が高いことを示しています。本市では、就業者の多い製造業や医療、福祉などで高くなっており、情報通信業で低くなっています。
- 通勤について、市外へ出ている人が多くなっているのは、高松市、坂出市、宇多津町で、市内へ来ている人が多くなっているのは、善通寺市、多度津町、三豊市となっています。また、2010年と比較すると、市内から多度津町、三豊市に通勤する人が増えており、市内には高松市、宇多津町、多度津町から通勤する人が増えています。

■男女別従業員数と特化係数(2015年)



資料：国勢調査

■周辺市町への通勤状況(2015年)



資料：国勢調査

■県内の昼夜間人口比率(2015年)

	常住人口 (夜間人口) (人)	従業地・通学地人口 (昼間人口) (人)	昼夜間人口比率 (%)	
				順位
直島町	3,139	3,608	114.9	1位
坂出市	53,164	60,114	113.1	2位
高松市	420,748	435,901	103.6	3位
善通寺市	32,927	33,130	100.6	4位
観音寺市	59,409	59,626	100.4	5位
琴平町	9,186	9,227	100.4	6位
小豆島町	14,862	14,838	99.8	7位
土庄町	14,002	13,872	99.1	8位
宇多津町	18,952	18,686	98.6	9位
東かがわ市	31,031	30,115	97.0	10位
多度津町	23,366	22,531	96.4	11位
丸亀市	110,010	104,968	95.4	12位
さぬき市	50,272	47,688	94.9	13位
綾川町	23,610	22,180	93.9	14位
三豊市	65,524	61,184	93.4	15位
三木町	27,684	24,845	89.7	16位
まんのう町	18,377	15,998	87.1	17位

資料：国勢調査

## 外国人に関すること

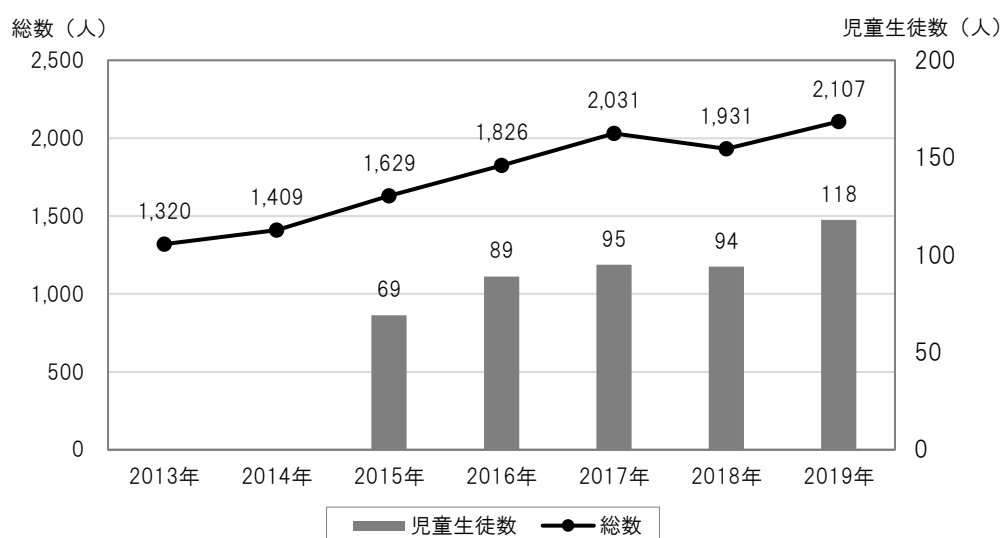
### 外国人の人口は増加傾向

### 国籍は、中国、フィリピン、ペルー、ベトナムの割合が高い

○外国人人口は、中国、フィリピン、ペルー、ベトナム国籍の方を中心に増加傾向にあります。近年では2,000人を超え、市民全体の約2%となっています。

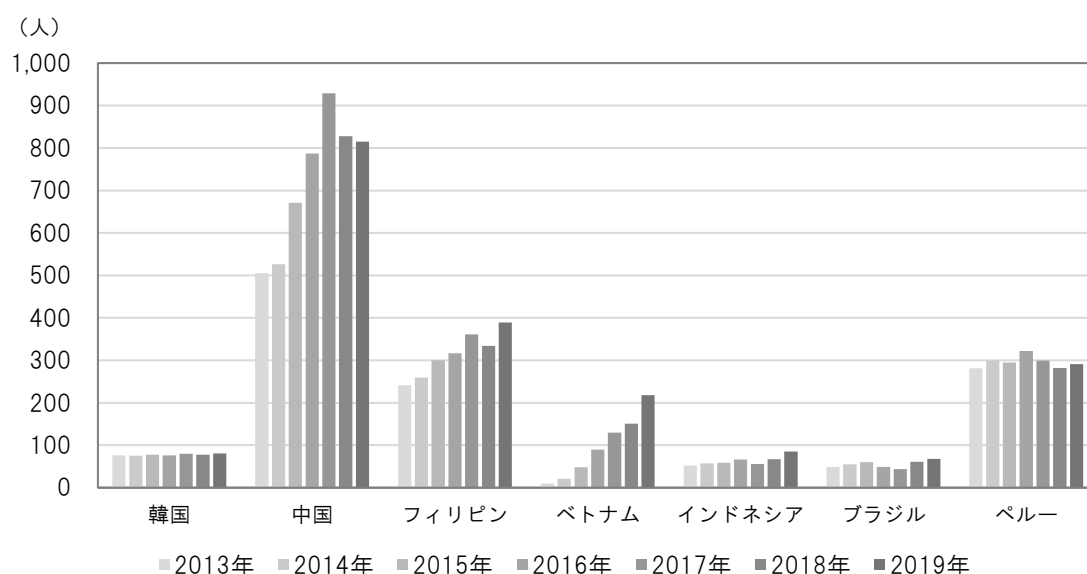
○外国人の児童生徒数も増加傾向にあります。

#### ■外国人の人口推移(各年の数値:総数は10月1日、児童生徒数は5月1日現在)



資料：丸亀市

#### ■主要な国籍別による外国人人口の推移



資料：丸亀市

## (2) アンケート調査からの把握

※グラフ中の「N」は集計対象となった回答者数を表しています。また、「今回」は、今回の人口ビジョン改訂に伴い実施したアンケート、「前回」は、前回の人口ビジョン策定に伴い実施したアンケート結果を示しています。

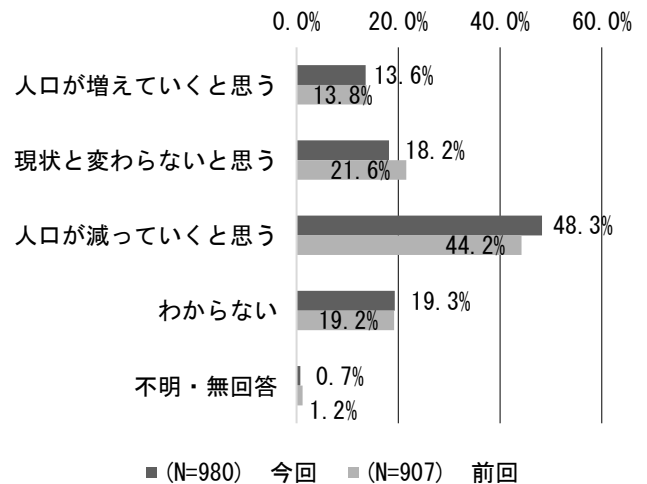
### 【市民アンケート】人口減少に対する意識

**今後、本市の人口は  
減っていくと思う…48.3%**

(前回 44.2%)

**増えていくと思う…13.6%**

(前回 13.8%)



○今後、丸亀市の人口はどうなると思うかについてみると、「人口が減っていくと思う」が 48.3%(前回比+4.1 ポイント)と最も高く、「人口が増えていくと思う」は 13.6%となっています。

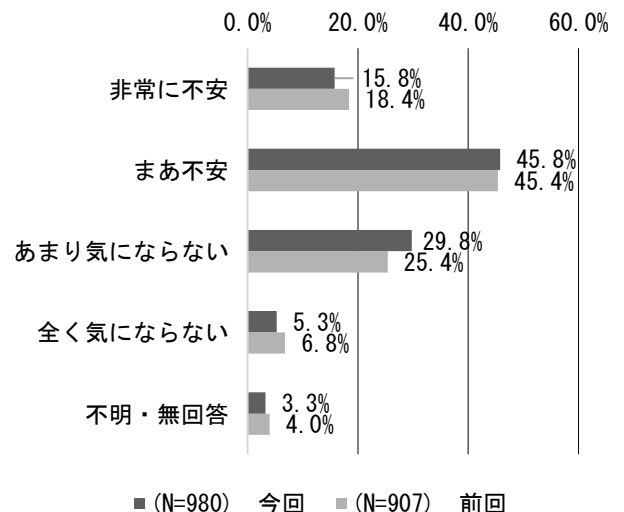


**人口減少に対して  
不安を感じる…61.6%**

(前回 63.8%)

**気にならない…35.1%**

(前回 : 32.2%)



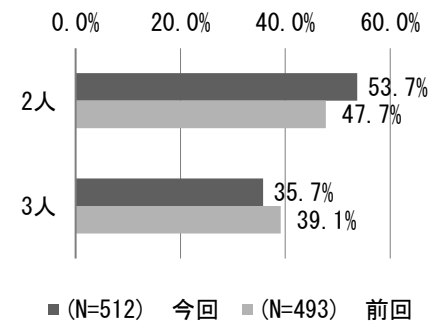
○「地域の人口が減少する」と聞いてどのように感じるかについてみると、「まあ不安」が 45.8%と最も高く、次いで「あまり気にならない」が 29.8%、「非常に不安」が 15.8%、「全く気にならない」が 5.3%となっています。

## 【市民アンケート】結婚・出産・子育てについて

### 理想のお子さんの数

**2人…53.7%** (前回 47.7%)

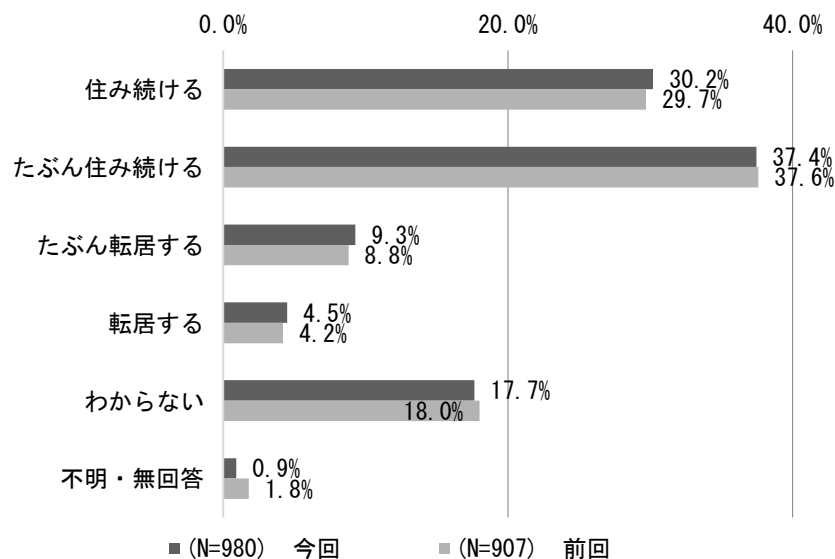
**3人…35.7%** (前回 39.1%)



○理想とするお子さんの数についてみると、「2人」が53.7%と最も高く、次いで「3人」が35.7%となっています。

## 【市民アンケート】定住・移住について

**今後も丸亀市に住み続ける…67.6%** (前回 : 67.3%)



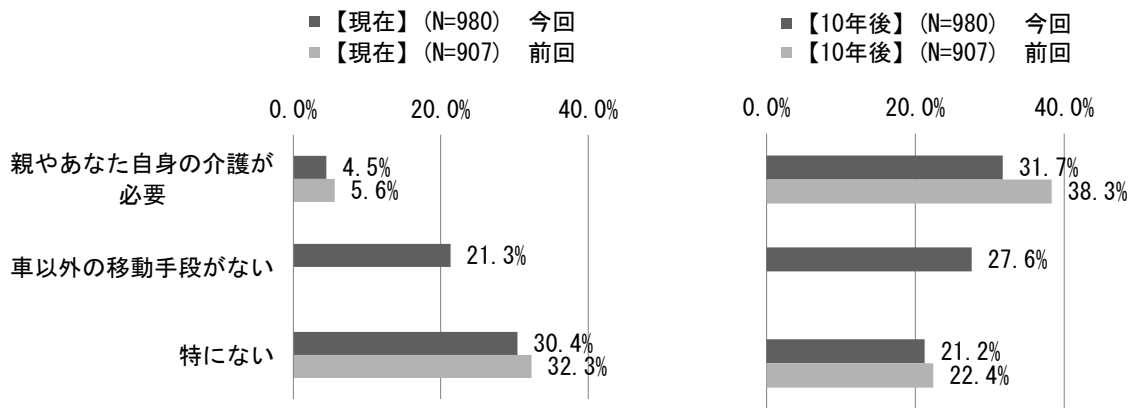
○「住み続ける」の内訳では、「住み続ける」が30.2%、「たぶん住み続ける」が37.4%となっています。



## 【市民アンケート】 困りごと・不安について

現在→「特にない」…30.4% (前回 32.3%)

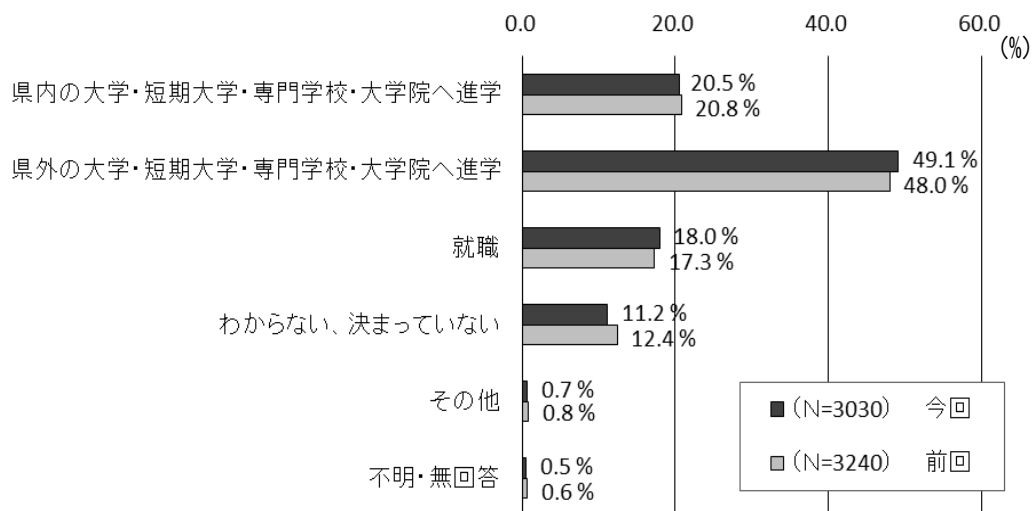
10年後→「親やあなた自身の介護が必要」…31.7% (前回 38.3%)



○現在の困りごと・不安では、「特にない」がもっとも高くなっていますが、10年後の困りごと・不安では「親やあなた自身の介護が必要」の割合が高くなっています。また、新たな設問の「車以外の手段がない」は、現在21.3%、10年後27.6%と高くなっています。

## 【高校生アンケート】 卒業後の進路について

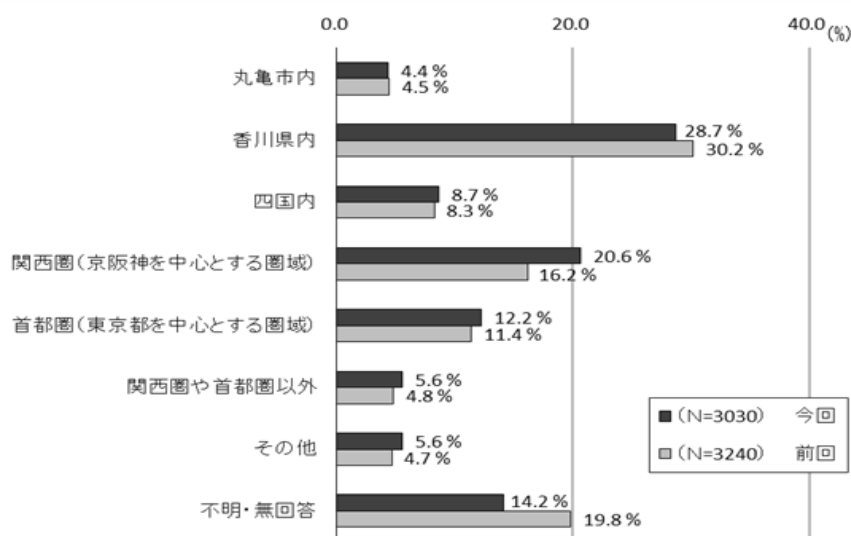
県内希望…20.5% (前回 20.8%) 県外希望…49.1% (前回 48.0%)



○卒業後の進路についてみると、「県外の大学・短期大学・専門学校・大学院へ進学」が49.1%と最も高く、次いで「県内の大学・短期大学・専門学校・大学院へ進学」が20.5%となっています。

## 【高校生アンケート】希望の就職地について

**県内…28.7%** (前回 30.2%)、**丸亀市内…4.4%** (前回 4.5%)



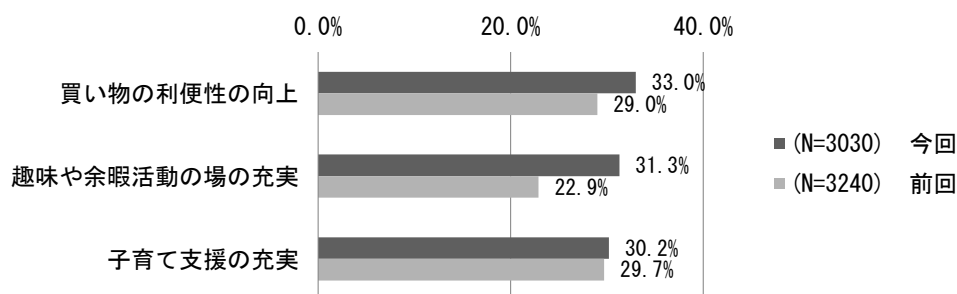
○希望の就職地についてみると、「香川県内」が28.7%と最も高く、次いで「関西圏(京阪神を中心とする圏域)」が20.6%、一方で「丸亀市内」希望は4.4%となっています。

## 【高校生アンケート】定住やUターンに必要なサポートについて

**買い物の利便性の向上…33.0%** (前回 29.0%)

**趣味や余暇活動の場の充実…31.3%** (前回 22.9%)

**子育て支援の充実…30.2%** (前回 29.7%)



○丸亀市に住み続けたり、Uターンをしたりするために必要なサポートについてみると、「買い物の利便性の向上」が33.0%と最も高く、次いで「趣味や余暇活動の場の充実」が31.3%となっています。

○前回調査では、「子育て支援の充実」が最も高く、次いで「買い物の利便性の向上」となっています。

### 3 将来人口推計のための分析

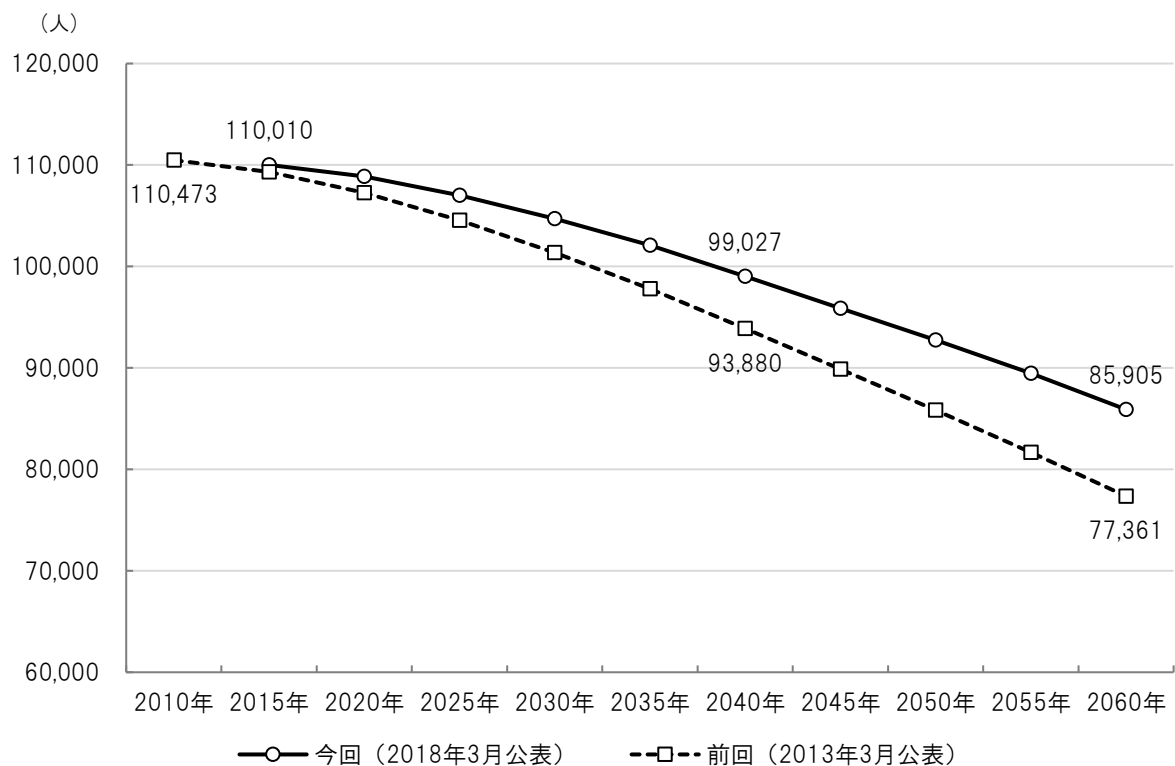
#### 国立社会保障・人口問題研究所による総人口の推計結果の状況

## 総人口は緩やかに減少し、 2060年には85,905人（社人研推計）

○国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研という。）による最新の推計結果では、2040年時点で約10%、2060年時点で約22%減少という結果が出ています。

○総人口は2040年に99,027人、2060年に85,905人となる予測です。

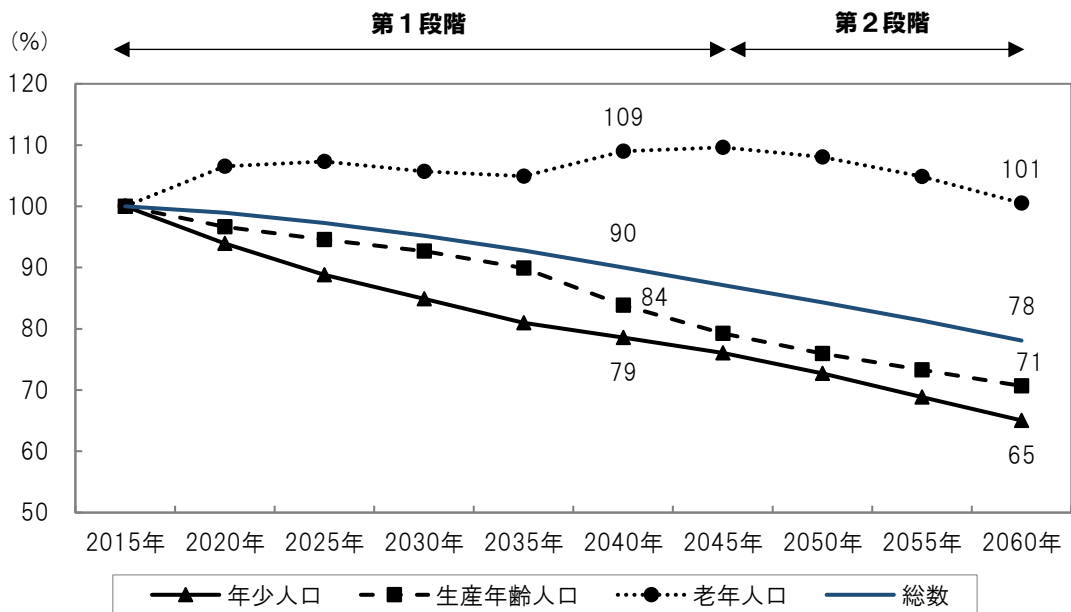
#### ■社人研による総人口推計結果



## 2015年から2040年までで老年人口は約10%増加、 生産年齢人口は約15%減少、年少人口は約20%減少

○人口減少は、一般的に「第1段階：老年人口増加＋生産年齢・年少人口減少」「第2段階：老年人口維持・微減＋生産年齢・年少人口減少」「第3段階：老年人口減少＋生産年齢・年少人口減少」の3つの段階を経て進行するとされています。

### ■社人研推計から見た人口減少段階の分析



### ■人口減少段階

	2015年	2040年	2015年を100とした場合の2040年指数	人口減少段階
年少人口	15,218	11,960	79	1
生産年齢人口	64,600	54,164	84	
老年人口	30,192	32,903	109	

○社人研推計から見ると、2045年頃までが老年人口が増加する「第1段階」であり、その後、老年人口が維持から微減に転じる「第2段階」に入ると見込まれます。

人口減少により、以下のような影響が生じることが想定されます。

### **1. 地域を支える担い手の減少により地域力が弱くなります。**

地域の伝統行事や祭りなどの担い手の減少による地域文化の衰退が懸念されます。また、生活の中のちょっとした困りごとや問題解決のためには、行政だけでなく、地域の力が必要となり、暮らしを支える地域の担い手の減少は、地域の活力の低下にもつながります。

### **2. 行政サービスの維持が難しくなります。**

人口減少による税収や対象者の減少により、市民の日常生活を支える行政サービスの中には維持できないものが出てくる可能性があります。

例えば、公共施設や公共交通が維持できなくなると、特に高齢者の移動など日常生活に重大な支障が生じます。

### **3. 生活レベルの低下が懸念されます。**

労働力の減少や消費の低下が引き起こす地域経済の衰退は、雇用や家計に直接的に影響を及ぼします。

失業や生活困窮など今まで考えていなかった生活の危機に直面し、同じような生活レベルを維持することが難しくなる恐れがあります。

### **4. 経済的な負担が増加します。**

少子高齢化を伴った人口減少によって、年金、医療、介護等の社会保障に係る将来の財政負担は益々大きくなります。

一方で、社会保障費の財源となる税収が減ることから、一人当たりの負担は大きくなり、さらに経済的不安が大きくなりかねません。

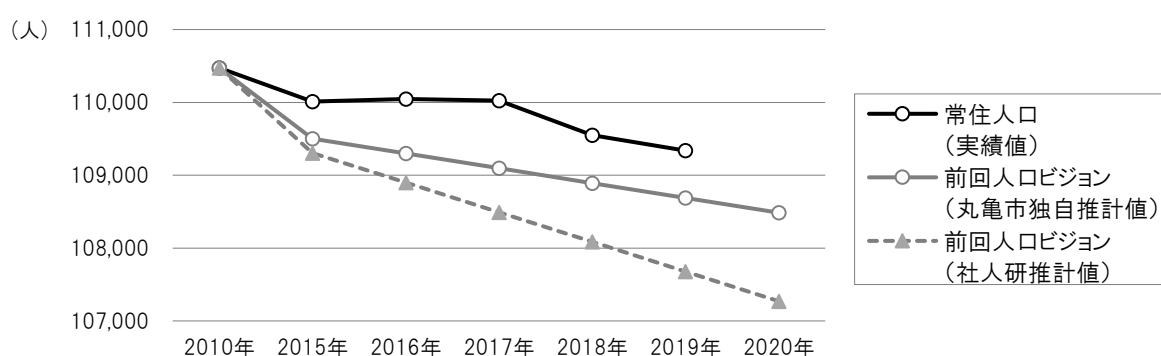
## 4 人口の将来目標

人口減少によって想定される影響を最小限に抑えるために、本市が将来目指すべき人口を推計します。

### (1) 丸亀市独自推計による総人口の推計結果

独自推計するうえでの前提として、前回の人口ビジョンのこれまでの状況を見ると、常住人口（人口の実績値）は市の独自推計とほぼ変わりなく推移しています。

■前回の人口ビジョンの推計値と実績値(2010～2020年)



### 推計の概要

これまでの分析を踏まえ、今回の推計は下記のとおりとします。

「合計特殊出生率」については、2018年の結果が香川県と同じ値になったことなどから、香川県の人口ビジョン（パターン③）に準拠しています。

「移動率」については、同じ条件を前回のビジョンでも設定し、達成できたため、引き続き継続します。

	合計特殊出生率	移動率
A 社人研推計	1.60～1.62 を推移すると仮定。	20～44 歳、55～59 歳などで概ね転出超過となる仮定。
B かがわ人口ビジョンパターン③準拠による推計	2030 年に 1.80、2040 年に 2.07 に到達すると仮定。	転入と転出が均衡。
C 丸亀市の独自推計	B と同じ仮定。	子育て世代(20～39 歳)の社会増減率を社人研の+2%と仮定。他は社人研に準拠。

## 推計の結果

丸亀市の独自推計に基づく将来人口の目標は次のとおりです。

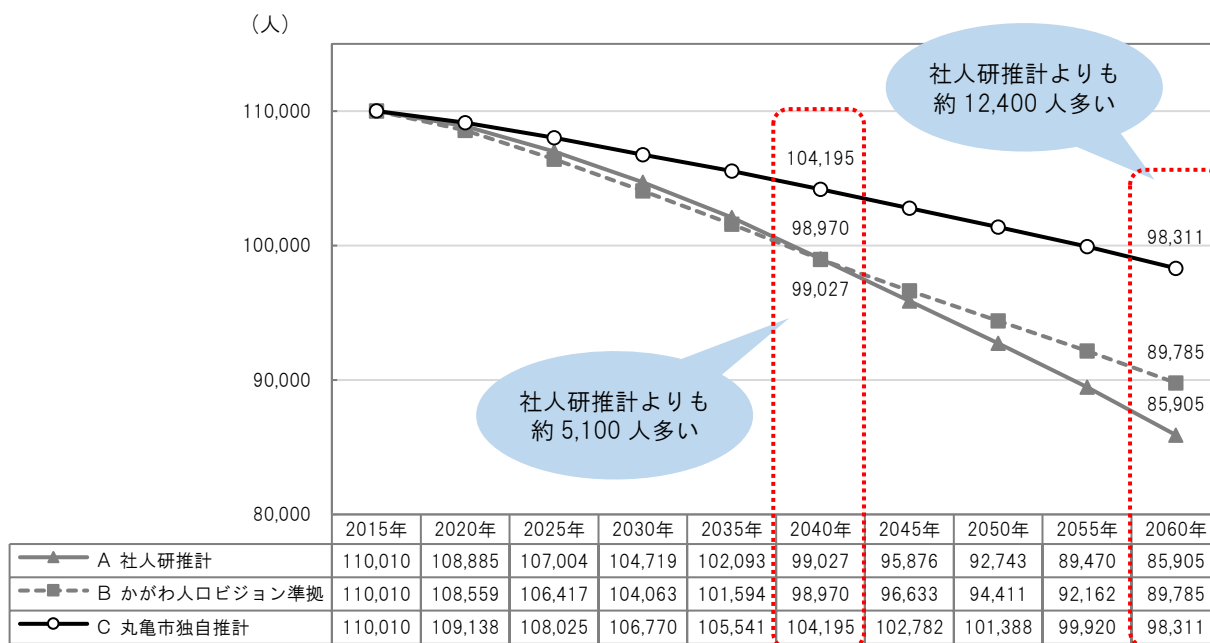
**2060年 将来人口目標 98,300人**

※前回 93,000人

**2040年時点 104,200人**

※前回 101,000人

### ■人口推計と長期的な見通しの比較

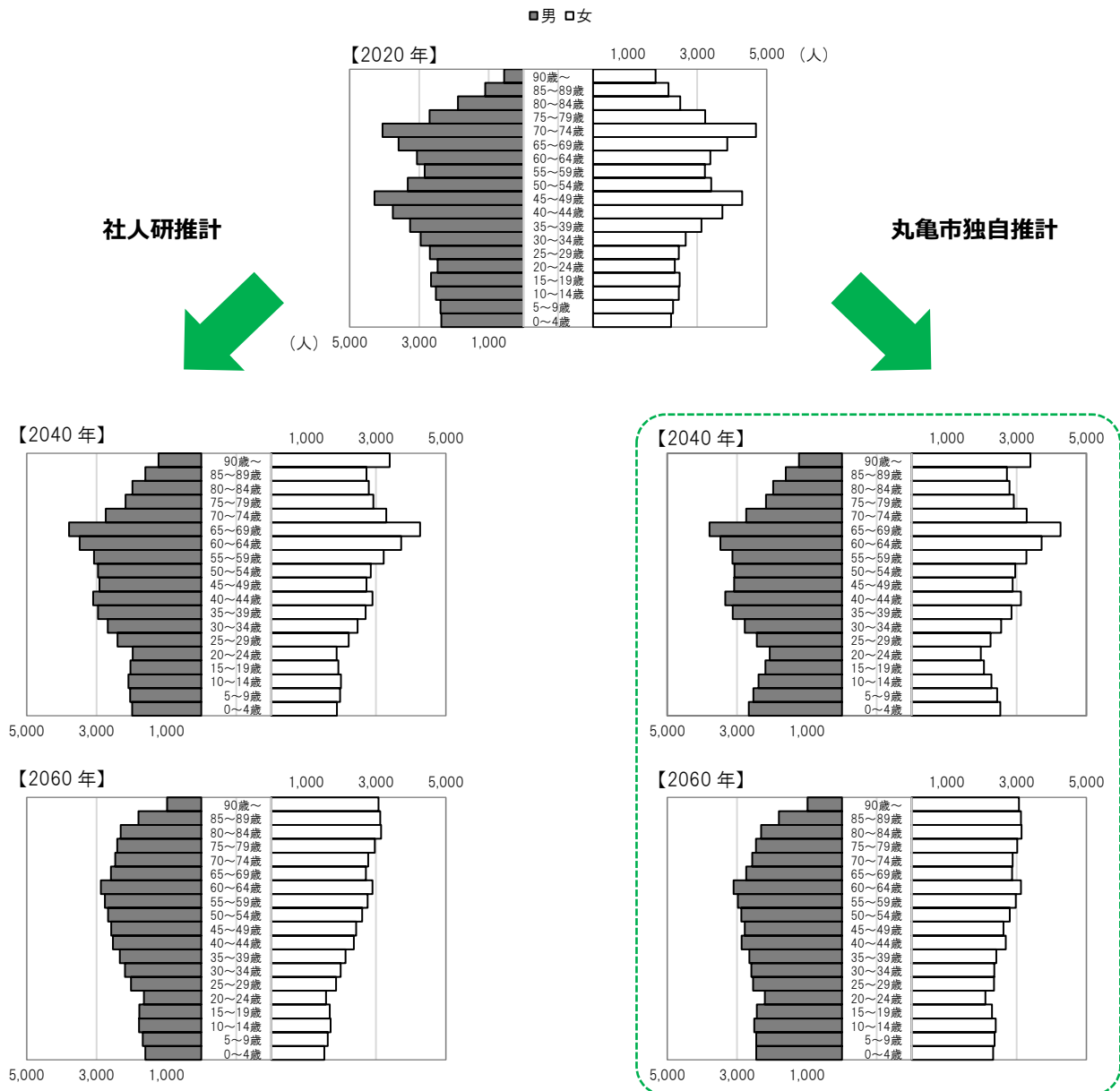


## (2) 将来目標によってもたらされる効果

### 人口構造の変化

## 人口ピラミッドを「つぼ型」から「つりがね型」に

- 人口構造を表す人口ピラミッドの形をみると、2020年は年少人口が減少し、老年人口が多くなるつぼ型となっており、社人研推計の場合、つぼ型のまま、全体が縮小すると予想されています。
- 丸亀市独自推計では、各年齢層のバランスがとれ、理想とする「つりがね型」へと変化していきます。



資料: 社人研「日本の地域別将来人口推計(2018年3月推計)」

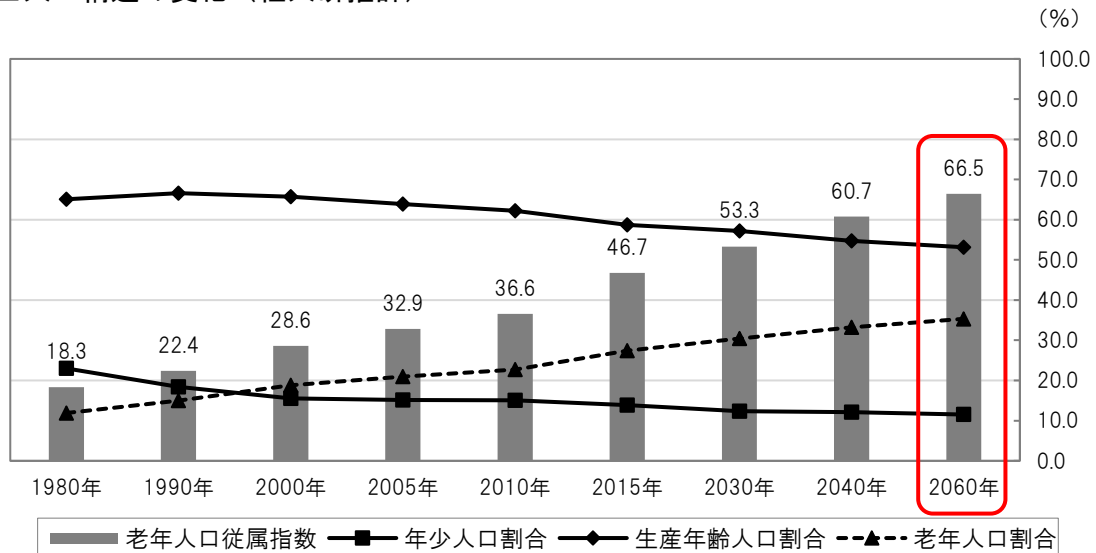


## 2060年に生産年齢人口100人が支える高齢者の数 66.5人（社人研推計）⇒58.7人（丸亀市独自推計）

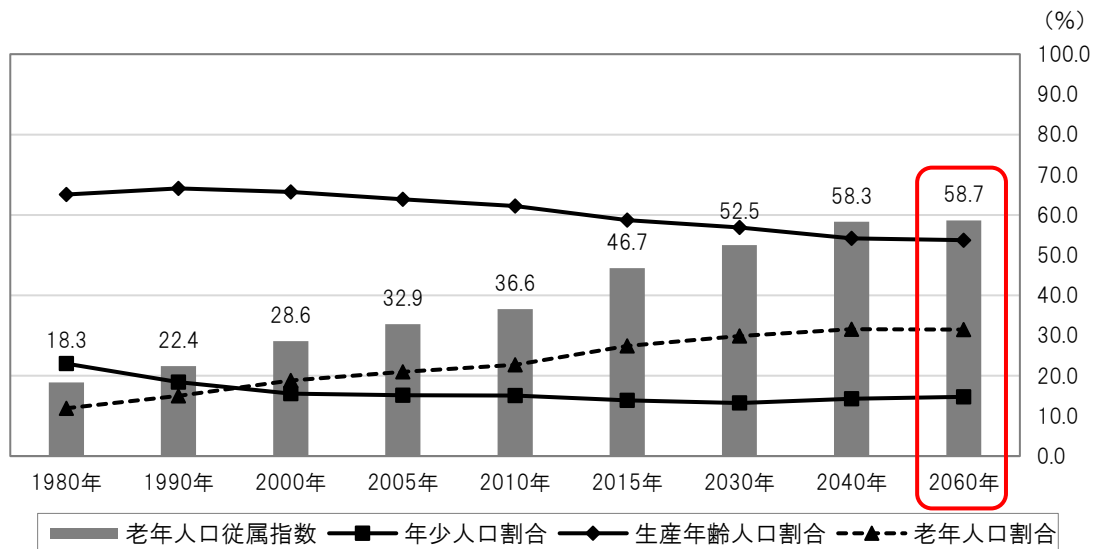
○生産年齢人口100人が高齢者を何人支えているかを示す「老年人口従属指数」は、社人研推計の場合、1980年から急速な増加傾向となっており、2060年に66.5となります。

○丸亀市独自推計では、2060年頃にピークを迎えて以降、生産年齢人口の減少に歯止めがかかり、老年人口従属指数も減少に転じると考えられます。

### ■人口構造の変化（社人研推計）



### ■人口構造の変化（丸亀市独自推計）



資料：国勢調査及び社人研「日本の地域別将来人口推計（2018年3月推計）」

### (3) 目指すべき将来の方向 ～第2期丸亀市未来を築く総合戦略に向けて～

安定的な人口規模の確保と人口構造の若返りを目指すためには、社会増減と自然増減の両面を改善していく必要があります。

一方で、地域経済への影響など、人口が減少していくことを想定した取組も大切になります。

本市では、人口ビジョンの考察から導かれた以下の4つの視点をもとに、「第2期丸亀市未来を築く総合戦略」を策定します。今後は、この戦略に基づきながら、人口減少対策に関する具体的な取組を推進していきます。

#### 1 合計特殊出生率の向上

自然増減については、年々出生数が減少しており、寿命が延び、高齢化が進行する社会にあっても、自然減の傾向が続いています。

子どもを産み育てたいという希望が叶えられる環境づくりに努め、自然増への転換を目指します。

#### 2 転出抑制と転入促進

社会増減については、全体として社会増の傾向にありますが、若い世代においては、進学や就職を機に大阪、東京などの大都市圏へと転出するケースが目立ちます。

そういった若い世代の転出抑制やUターン促進につながる施策に取り組み、さらなる社会増を目指します。

#### 3 丸亀特有の地域資源のさらなる活用

丸亀市は、シンボル丸亀城をはじめとした文化観光資源や美しい瀬戸内海と塩飽諸島など、魅力ある地域資源に溢れています。

丸亀特有の地域資源の活用により、交流人口や関係人口の増進を図ることで、地域の活性化を目指します。

#### 4 生活不安の解消と安心の醸成

日々の生活での様々な不安が解消され、安心して暮らせる、そんな「暮らしやすさ」は丸亀市最大の強みです。

こうした特性を生かし、人口流出をできる限り防ぐとともに、例えば人口が減ったとしても、誰もが豊かに暮らしていける地域社会の形成を目指します。

## 丸亀市人口ビジョン（令和 2 年改訂版）

---

発行：2020 年（令和 2 年）3 月

作成：丸亀市 市長公室 秘書政策課

〒763-8501 香川県丸亀市大手町二丁目 3 番 1 号

TEL：0877-24-8839

FAX：0877-24-8860

E-mail：seisaku-t@city.marugame.lg.jp